

道路の維持管理 横断側溝の改修計画



市川 けんじ 議員

町の維持管理する道路は町道・農道・林道合わせて1098路線、725.5kmあるが、ポルト固定をされていない横断側溝の数は把握されているのか。

道路はスピードを出して走っているため、重大な事故につながる予測できることから、計画的に改修を進めていくべきでないか。

水田土木課長

管理延長が長いため把握していない。

町職員によるパトロールの中で、水路蓋のガタツキ

など、跳ね上げの恐れがないかを視野に入れていく。

現在、新しく横断側溝を設置する場合は、構造基準にのっとり、蓋の跳ね上がり防止などの安全対策として、ポルト固定を施しているが、町内には、ポルト固定していない横断側溝が多くあり、跳ね上がりの恐れが見られた場合には、路線の重要度が高い箇所から順次改修をしていく。

市川議員

重要度が高い箇所から順次改修を進めることはよく分かるが、まず跳ね上げの危険性のある横断側溝の把握が必要ではないか。

修繕箇所が多くて何年もかかってしまえば、事故はなかなか防げない。

グレーチングは1枚で跳ね上がるものが多く、2枚になると重量もあり、跳ね上がる危険性も非常に少な

くなることから、2枚を横のポルトで固定するような応急対策をとって、予算の範囲内で順次改修をしていくことはできないか。

水田土木課長

跳ね上げの危険性のある箇所の把握については、住民の安全な通行を確保する上で必要である。

パトロール結果を蓄積し、事故防止に努める。

ポルトによる応急対策は改修までの一つとして活用させてもらう。

乳幼児健診について 本川地区懇談会での 住民要望を受け、今後 どのように

市川議員

平成29年2月26日本川プラチナ交流センターにおいてごみ分別の説明会に併せて、本川地区懇談会が開かれた。現在は幼児健診はすこやかセンターでしか受けられない。乳児健診は吾北でも行っているので、幼児健診も吾北で開催できない

か、との要望に、町長は吾北での開催に前向きに検討していく、との答弁であった。

合わせて、同じ子育てなのに、なぜ、本川で開催できないのか、との意見に対して、「地域格差」があつてはいけないので本川での実施を検討していく、との答弁だったと思うが、その後、どのように行っていくようにしたのか。

池田町長

ほけん福祉課と関係機関・関係者との調整が整ったので、平成29年7月6日に本川保健福祉センターにおいて実施予定とした。

対象保護者の方へは6月7日に「健診のご案内」を送付している。今後においては、対象児の人数、医師などスタッフの確保や適切な月齢で健診をセッティングできるのか、などの人的、時期的な

調整事項もあるが、保護者の皆さんの思いを尊重していく。

市川議員

今後、乳幼児健診は伊野地区、吾北地区、本川地区で行っていく、と理解してよいか。

池田町長

今後においても、保護者の皆さんと対話を重ね、ニーズを把握し住民の意見を尊重していく。



本川地区での幼児健診